

平成30年6月28日現在

機関番号：32614

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26770087

研究課題名(和文) 旧訳を中心とした谷崎源氏テキストに関する基礎的研究 翻訳文学としての再検討

研究課題名(英文) research on tanizaki junichiro's translation about the tale of genji

研究代表者

大津 直子(Otsu, Naoko)

國學院大學・教育開発推進機構・助教

研究者番号：40551031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：谷崎潤一郎訳『源氏物語』、通称谷崎源氏は、「作家の手による翻訳」という享受の有り方を確立したと言って良いだろう。谷崎源氏と呼ばれるものはこの世に三つ存在している。訳文が最も大きく変容したのは、昭和14年から16年にかけて刊行された第一の訳、通称「旧訳」と、昭和26年から昭和29年にかけて刊行された第二の訳、通称「新訳」との間である。

本研究は、現存されているとされる唯一の草稿、國學院大學蔵の『新訳草稿』の校本を作成することを通して、谷崎が生涯をかけて行った現代語訳の意義について考究した。四年間で谷崎源氏研究会を立ち上げ、シンポジウムと研究会を開催、「蛍」巻校本を作成、公開した。

研究成果の概要(英文)：Tanizaki Junichiro translations "Tale of Genji" called Tanizaki Genji, are an example of translation by an author. The influence to posterity of Tanizaki Genji is big. There are three Tanizaki Genji. We should aim at a big change between the first translations and the second. This research is an investigation of a draft of Tanizaki Genji who exists only. Why did Tanizaki translate "the Tale of Genji" three times? I had a seminar and discussed, and made a variorum of HOTOBUCHI's draft for four years.

研究分野：中古文学

キーワード：源氏物語 現代語訳 翻訳 草稿 校本 山田孝雄 玉上琢彌

1. 研究開始当初の背景

谷崎潤一郎の『源氏物語』訳、いわゆる谷崎源氏の執筆理由は、当時金銭的に困窮していた谷崎の経済事情から説かれることが多い。傍らで口述筆記を担当した伊吹和子などは「『源氏』は谷崎先生にとってはお金でした」と証言している。申請者は、こうした従来の谷崎源氏への評価に疑問を抱き、偶然手にした一級資料から谷崎源氏の文学的な価値を問い直そうとするものである

2. 研究の目的

複数の国文学者が携わり、複数回に亘り訳された谷崎潤一郎訳『源氏物語』という作品の本性を、唯一現存する新訳の草稿の書入と、同時代に刊行された注釈との影響関係から明らかにしたい。他の『源氏物語』訳にはない谷崎源氏の重要な特徴は、作家翻訳でありながら、作家個人の目指す到達点とその到達点とは時に相容れない国文学研究からのまなざしとがせめぎ合う点にある。

近代は皇統の乱脈を描く『源氏物語』受難の時代であり、注釈も時代の制約を受けている。近代は現代の『源氏物語』研究においては見過ごされがちな、注釈史における空白の時間といえる。谷崎源氏はその空白と重なる形で産み落とされた。谷崎源氏研究は、近代の『源氏物語』研究を振り返り再評価を行うことをも意味する。本研究では第一番目の訳旧訳のデータベースを作成し、谷崎源氏研究に寄与したい。

3. 研究の方法

本研究では、新訳草稿のうち、新訳誕生の立役者である玉上琢彌の草稿を最大限に活かす。その理由としては、第一に、玉上の書き入れが当時出たばかりの朝日古典全書『源氏物語』などを反映した最新の説であること、第二に、物語音読論を唱える玉上の書き入れが、谷崎が訳に籠めたこだわりや文芸性に抵触している痕が見られること、第三に、旧訳で削除された本文を探して指摘し、加筆箇所が大幅な場合には下訳を担当していること、第四に、山田孝雄が新訳の段階ではだいぶ高齢であり、谷崎が敬意を表す形で今回も校閲者に据えたと目されることが挙げられる。玉上の書き入れの傾向をまず押さえ、書き入れが集中している箇所を摘出、その中でも谷崎が斥けている場面を、近代注釈を散見しながら整理する。

成果報告は、旧訳のテキストデータを作成しインターネット上で公開すること、連携研究者3名と技術者や知財専門家等の研究支援を行う者2名で研究会を立ち上げ年に二回開くことを行う。

4. 研究成果

(1) 「蛩」巻校本の完成

本研究の柱は、平成18年谷崎の養女である観世恵美子氏より國學院大學に寄贈された、『潤一郎新訳 源氏物語』草稿(以下『新訳』草稿)の書き入れ全文を校本の形でデータ化することである。谷崎と彼の作品とは近代文学研究の対象であるが、谷崎源氏は平安文学研究の対象ともなりうる。加えて、出版の規模、検閲を含めた戦前戦後という当時の社会からの影響など、歴史学、社会学、出版史などからのアプローチも必要である。谷崎源氏研究に関しては、相互補完的な学术交流が求められるのである。学際的な研究において、簡便に基礎データを入手できる環境づくりは不可欠である。本研究は國學院大學蔵『新訳』草稿研究の第一歩であると同時に、谷崎源氏研究全体の活性化を促すものである。

『新訳』草稿は6種類によって構成されている。書き入れの内容は、古典文法から有職故実に至るまで多岐にわたる。谷崎源氏本人の書き入れはもとより、近代～現代註釈書への移行期に、山田、玉上という古典研究者が記した進言は、『源氏物語』研究史上も価値のあるものである。校本試案ではそれらと訳出に用いたテキスト、『湖月抄』とを横並びにし、推敲異文も含めた細やかな書き入れを出来る限り全て文字に起こし、玉上、山田のどの書き入れがどう『新訳』の本文へと反映されたかを時系列で掲げた。

(2) 谷崎源氏研究会発足

草稿の校本作成、精査、研究を目的とした上記の研究会を発足した。下記日程には、谷崎源氏研究会シンポジウムを開催した。

【日時】

平成28年(2016)3月5日(土)13:30~17:20 一般公開(入場無料・来聴歓迎)

【会場】

國學院大學 学術メディアセンター1F 常盤松ホール

【プログラム】

13:30 開会のご挨拶
13:40-14:00 「國學院大學蔵『潤一郎新訳 源氏物語』について」

國學院大學 秋澤 互
14:00-14:30 [報告1] 「戦時下版「谷崎源氏」成立の背景 編集者宛て新出書簡にふれながら」

京都精華大学 西野厚志
14:30-15:00 [報告2] 「削除という方法 『潤一郎訳源氏物語』考」

静岡大学 中村ともえ
15:00-15:30 [報告3] 「旧訳と新訳との間 新紹介資料「藤壺 賢木の巻補遺」改稿版から考える」

國學院大學 大津直子
15:30-16:15 (休憩・國學院大學蔵『谷崎

源氏』草稿の展覧・コメントシートの回収)

16:15-16:55 討論、質疑応答

16:55-17:15 総括討論

17:15-17:20 閉会のご挨拶

総合司会

中京大学 酒井 敏

シンポジウム司会

長野県短期大学 牧 義之

このシンポジウムを以って、谷崎源氏研究の拠点を築くことができた。

本研究完了後も継続的に研究会を開催し、草稿から浮かび上がる問題を検証していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

大津直子「光源氏と葵の上との結婚 「問はぬはつらきものにやあらん」という言葉の意味するもの」(原岡文子・河添房江編『源氏物語 煌めくことばの世界』翰林書房 2018年 183-201頁)

大津直子,大脇絵里,高塚雅,服部宏昭,増田 祐希,「國學院大學蔵『潤一郎新訳 源氏物語』草稿の全文テキストデータ化を目指して 附「蛭」巻試案」『國學院大學紀要』,査読有、55号、1~25頁、2017年

大津直子「藤壺の「御かはり」としての王命婦 冷泉帝の御代安泰の論理」、『文学・語学』,査読有、216号、15~25頁、2016年

大津直子「猫をめぐる物語 『源氏物語』二部世界と谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』について」、『大津直子、「物語文学論究」,査読無、14号、193~203頁、2016年

大津直子「透視される女たちの再話 物語の淵源としての言語空間」、『大津直子、「中古文学」,査読無(寄稿)、96号、6~13頁、2015年

大津直子「谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』論 『源氏物語』の翻訳体験との交渉をめぐる」、『大津直子、「日本近代文学」,査読有、93号、32~45頁、2015年

[学会発表](計5件)

大津直子「光源氏と葵の上との結婚 「問はぬはつらきものにやあらん」という言葉の意味するもの」國學院大學國文學會春季大会(於國學院大學)2017年6月

大津直子「藤壺の心中を暴いたのは誰か 『源氏物語』語りの構造」韓国日本研究団体第5回(韓国日本学会第93回)国際学術会議(於 嘉泉(Gachon)大学校)

2016年8月

大津直子「透視される女たちの再話 物語の淵源としての言語空間」,中古文学会シンポジウム、於白百合女子大学、2015年5月

大津直子「藤壺の「御かはり」としての王命婦 冷泉帝の御代安泰の論理」,全国大学国語国文学会第120回大会(於弘前大学)2014年11月

大津直子「谷崎源氏と時局 旧訳の削除から透かし見えるもの」第10回出版法制史研究会(於 國學院大學)2014年7月

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

企画展示「谷崎潤一郎 創造の内幕(2) 翻訳と創造の往還」(於國學院大學学術メディアセンター2F、2017年11月20日~12月6日)

企画展示「谷崎潤一郎 創造の内幕 『谷崎源氏新訳草稿』を中心に」(於・國學院大學学術メディアセンター2F、2016年3月1日~8日)

大津直子,酒井敏,秋澤互,西野厚志,中村ともえ,牧義之,谷崎源氏研究会シンポジウム「谷崎源氏を考える」大於國學院大學常磐松ホール、2015年3月5日(土)

6. 研究組織

(1)研究代表者

大津直子(Otst Naoko)

國學院大學・教育開発推進機構・特任助教

研究者番号:40551031

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()